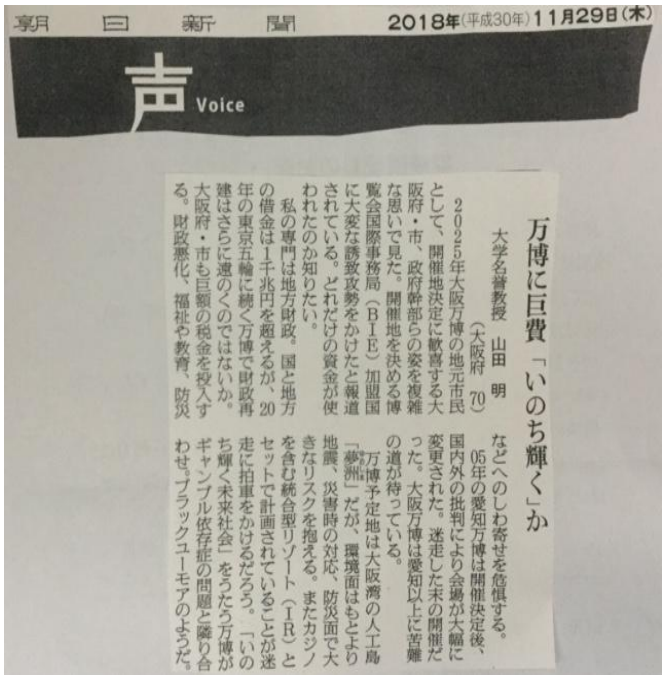
朝日新聞「声」と大阪・関西万博

名古屋にいた頃、朝日新聞や中日新聞によく投稿していた。水田洋先生や西条八束先生の投稿に触発されたこともあるが。写真は大阪に転居して１年後に朝日新聞「声」に投稿して採用されたものだ。万博に巨費「いのち輝く」か、というタイトルがつけられている。どうせ採用されないと思ったが、大阪万博「決定」深夜に書き、大阪で初めて採用された。



朝日新聞　2018年(平成30年)11月29日(木)

声 Voice

万博に巨費「いのち輝く」か

大学名誉教授　山田　明（大阪府　70）

2025年大阪万博の地元市民として、開催地決定に歓喜する大阪府・市、政府幹部らの姿を複雑な思いで見た。開催地を決める博覧会国際事務局（BIE）加盟国に大変な誘致攻勢をかけたと報道されている。どれだけの資金が使われたのか知りたい。

私の専門は地方財政。国と地方の借金は1千兆円を超えるが、20年の東京五輪に続く万博で財政再建はさらに遠のくのではないか。大阪府・市も巨額の税金を投入する。財政悪化、福祉や教育、防災などへのしわ寄せを危惧する。

05年の愛知万博は開催決定後、国内外の批判により会場が大幅に変更された。迷走した末の開催だった。大阪万博は愛知以上に苦難の道が待っている。

「万博予定地は大阪湾の人工島「夢洲」だが、環境面はもとより地震、災害時の対応、防災面で大きなリスクを抱える。またカジノを含む統合型リゾート（IR）とセットで計画されていることが迷走に拍車をかけるだろう。「いのち輝く未来社会」をうたう万博がギャンブル依存症の問題と隣り合わせ。ブラックユーモアのようだ。

万博予定地は大阪湾の人工島「夢洲」だが、環境面はもとより地震、災害時の対応、防災面で大きなリスクを抱える。カジノを含む統合型リゾート(IR)とセットで計画されていることが、迷走に拍車をかけるだろう。「いのち輝く未来社会」をうたう万博が、ギャンブル依存症と隣り合わせ、ブラックユーモアのようだ。

当時の大阪は、万博誘致歓迎で、私のような批判的意見は少数派であった。万博に問題を投げかけることも躊躇するくらいであった。それから６年余りが経ち、万博に対する世論は一変している。能登半島地震により、万博中止・延期を求める声がいちだんと高まっている。

１月 11 日に、埼玉県の方が万博建設と能登復興についての声を投稿された。「現在進行中の大阪・関西万博の建設を中断し、建設従事者や資材を能登の復興に差し向けるべきではないでしょうか。このままでは、能登と大阪で人や資材の奪い合いがおきかねません。一時的な万博の開催と長期間に及ぶ能登の復興のどちらが大切かと言えば、それは自明の理です。撤退表明する国も出てきましたし、建設スケジュールの遅れや費用の高騰で、とかく批判の絶えない万博です。吉村洋文大阪府知事は『復興支援と万博は二者択一の関係ではない』と発言したとのことですが、能登の復興に全力を傾ける英断を、政府、万博関係者に期待するものです」

21 日には、大阪府の中学生が「万博はみんなが笑える時に」と題して投稿した。「東日本大震災により、今も住めない場所は残っている。石川県も大きな被害を受け、住めない地域は多数ある。果たして SDGs の目標達成に取り組めない国が、万博を開催すべきなのだろうか」と問題を投げかけた。

（2024 年 1 月 24 日）